

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



レブンアツモリソウの研究報告



礼文島にしか自生していないレブンアツモリソウは、島民の皆様の財産です。

過去に盗掘されるなど、その数は徐々に減ってきています。このような状況が長く続くと、絶滅につながってしまうかもしれません。そうならないようにレブンアツモリソウの生態を調べ、ひいては増殖方法を見つけるために研究をしてきている方達があります。その中から分かってきたことを紹介していききたいと思います。

レブンアツモリソウはラン科の植物です。ラン科植物は微少な種子を大量に生産します。しかし、**種子は発芽に必要な十分な栄養を持っていません。**

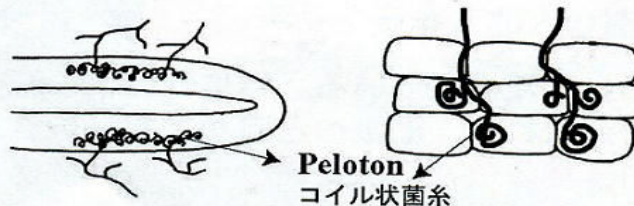
では、どのようにして栄養を取り込み、種子が発芽するのでしょうか。

それは、**土壌中の菌**（カビやキノコの仲間）と**共生**（一緒に暮らす）することにより発芽に必要な栄養を得ています。



北海道大学名誉教授 幸田泰則氏提供

ラン菌根
ラン科植物と
主にリゾクトニア属菌



共生の実体（特に菌側の利益）は不明

北海道大学名誉教授 幸田泰則氏提供

つまり、自然界で芽を出しているレブンアツモリソウは全て菌と共生して芽を出したもののなのです。言い換えれば、共生する菌（以下、共生菌）がないところに種が落ちてても芽を出せないということです。

この、共生菌に着目した共生発芽法を用いてレブンアツモリソウを人工的に増やす研究が進められています。

共生発芽法・・・共生菌をあらかじめ分離しておきます。次に、栄養が乏しい培地に種子をまき、菌を接種し、共生発芽させます。自然状態と同様な淘汰が起こるはずであり、得られた植物体は自生地の復元に適していると思われれます。